令和８年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立城北中学校

４月から５月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調 査 期 日 令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 中学校第3学年

調 査 の 内 容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・ 全国学力・学習状況調査は、小学６年生及び中学３年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

○ IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。

○ IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。

○ 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

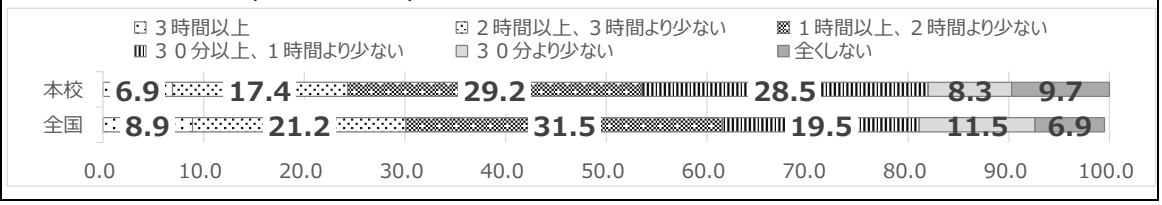
佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》　（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（%）

質問番号	質問事項	本校（%）	全国（%）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	**83.3**	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	**91.0**	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	**91.6**	92.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	**84.7**	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	**85.4**	79.0
23	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)１日当たりどれくらいの時間勉強していますか		



本校の調査結果（本校／全国、%）
- ◎ 自ら課題に取り組む 83.3／78.8
- ◎ 話合いで考えを深める 91.0／87.0
- ◎ 学び方を工夫する 84.7／78.2
- ◎ 振り返りを次に生かす 85.4／79.0
- △ 協力して課題を解決 91.6／92.4（ほぼ同水準）

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	**77.1**	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	**63.9**	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	**81.2**	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	**87.5**	91.0

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	**94.4**	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	**74.3**	72.3

本校の調査結果（本校／全国、%）
- ◎地域・社会に貢献したい 74.3／72.3
- ◎人の役に立ちたい 94.4／95.9
- ● 自分によいところがある 77.1／84.0
- ● 将来の夢・目標がある 63.9／67.6
- ● 学校に行くのが楽しい 81.2／85.4

調査結果を受けて

【学校では】
- ○ 毎月の学校生活アンケートを活用し、生徒の小さな変化や困りごとを把握します。声かけや相談後の見守りを続け、安心できる学校を目指します。
- ○ 授業・行事の振り返りやキャリア・パスポートで成長を確かめ、面談や家庭でも共有する機会をつくります。保護者からのメッセージも大切にします。
- ○ 生徒のよさを認め、ほめる本校の強みを生かし、授業や係活動で一人一人に出番・役割をつくり、自信につなげます。

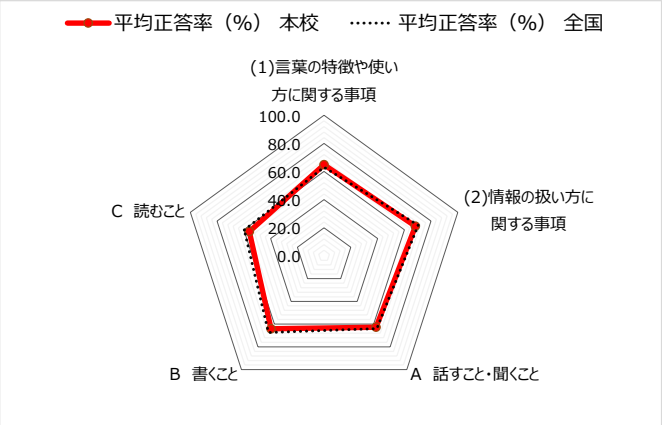
【ご家庭では】
- ○ 日頃からお子さんの話に耳を傾け、学校で楽しかったことや困りごとなどを聞いてみてください。心配なことは学校にもご相談ください。
- ○ キャリア・パスポートや振り返りを一緒に見て、成長や頑張りを認め、励ましの言葉やメッセージを伝えていただけると幸いです。将来の夢が決まっていなくても大丈夫です。
- ○ 家庭でも無理のない範囲で役割や挑戦の機会を設け、結果だけでなく、取り組む過程も認めてください。

教科調査

国　語

《学習指導要領の内容別　平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率（%） 本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	**64.8**	63.0
	(2)情報の扱い方に関する事項	**68.3**	70.4
思考力、判断力、表現力等	A　話すこと・聞くこと	**62.8**	63.9
	B　書くこと	**64.1**	67.4
	C　読むこと	**55.9**	59.7



《問題形式別　平均正答率》

問題形式	平均正答率（%） 本校	全国
選択式	**72.9**	72.7
短答式	**57.2**	55.8
記述式	**37.7**	45.5

結果　※◎（強み）、●（課題）

◎「言葉の特徴や使い方」（本校64.8%／全国63.0%）は全国を上回り、言葉の働きや使い方についての理解に強みが見られます。

● 記述式（37.7%／全国45.5%）や「読むこと」（55.9%／全国59.7%）は全国を下回り、文章を根拠に自分の考えを説明する力に課題が見られます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率（%） 本校	全国
3 二	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	**95.2**	92.3
1 一	助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる	**89.0**	84.3

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率（%） 本校	全国
4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	**27.6**	38.9
4 二	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	**32.4**	35.2

調査結果を受けて

【学校では】

○ 言葉の意味や使い方を、文章の中で確かめる活動を充実させます。

○ 本文から根拠を見つけ、「根拠→自分の考え」の順に短く書く練習を重ねます。

○ 書いた文章をお互い読み合い、自分の考えを深める活動を取り入れます。

【ご家庭では】

○ 読書や会話で気になる言葉があれば、意味を一緒に確かめてみてください。

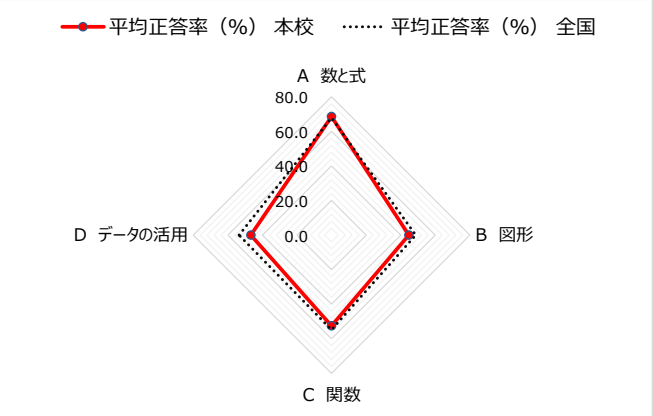
○ 本やニュースなどについて「どうしてそう思う？」と理由を聞き、考えを話す機会をつくってみてください。

教科調査

数学

《学習指導要領の内容別　平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率（%）	
	本校	全国
A　数と式	**68.5**	67.8
B　図形	**44.7**	48.7
C　関数	**52.5**	54.8
D　データの活用	**46.7**	53.5



《問題形式別　平均正答率》

問題形式	平均正答率（%）	
	本校	全国
選択式	**58.9**	59.3
短答式	**61.7**	64.2
記述式	**33.4**	39.1

結果　※◎（強み）、●（課題）

◎「数と式」（本校68.5%／全国67.8%）は全国を上回り、正負の数の活用やグラフから座標を読み取る問題で強みが見られます。

● 記述式（33.4%／全国39.1%）や「データの活用」（46.7%／全国53.5%）は全国を下回り、解決方法や判断の理由を説明する力に課題が見られます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率（%）	
		本校	全国
1	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	**86.3**	85.7
7（1）	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	**78.8**	75.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率（%）	
		本校	全国
7（2）	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	**23.3**	33.9
9（3）	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	**26.0**	31.9

調査結果を受けて

【学校では】

○「数と式」やグラフの読み取りで身に付けた力を生かし、考えた理由や解決方法を説明する学習に取り組みます。

○ 表やグラフを比較し、どの数値を根拠に判断したのかを説明する活動を充実させます。

○ 記述式の問題では、式・図・言葉を使って自分の考えを整理し、分かりやすく表現する力を育てます。

【ご家庭では】

○ 身近な表やグラフを一緒に見ながら、「どこからそう分かったの？」「何を根拠に考えたの？」と問いかけてみてください。

○ 答えだけでなく、解き方や考えた理由にも目を向け、答えを導き出そうとする過程や工夫を認め、励ましてください。

教科調査

英語

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	470
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1 ／ 2	2.1 ／ 5	0.5 ／ 2
全国	1.2 ／ 2	2.5 ／ 5	0.7 ／ 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題番号	技能	出題の趣旨
2	聞くこと	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
8	読むこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題番号	技能	出題の趣旨
１４	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる
１０（２）	書くこと	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる

結果　※◎強み、●課題

◎ 聞くことの問２（本校88.0%／全国78.5%）と読むことの問８（71.1%／全国63.8%）は全国を上回り、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりする力が見られます。

● 書くことの問14（4.1%／全国27.8%）や問10（２）（19.4%／全国27.8%）は全国を下回りました。特に問14は、無解答率18.4%（全国14.2%）に加え、特定の誤答類型が28.6%（全国13.0%）を占めます。書き始めることと、書いた英文の内容を整えることの両面に課題が見られます。

調査結果を受けて

【学校では】

○ 毎時間、自分の考えを短い英語を伝えたり、書いたりする活動に取り組みます。
○ 単元ごとに、事実と自分の考えを区別しながら、簡単な英語で書く練習を行います。
○ 英作文については、生徒同士のピアフィードバックや教員による添削を通して、自分の誤りに気付き、表現を改善する機会を設けます。

【ご家庭では】

○ 基本となる単語を、発音や音声と結び付けながら覚えられるよう、家庭でも学習する機会をつくってください。
○ 基本的な文法練習に継続して取り組めるよう、日々の学習を見取り、頑張りを認める声かけをお願いします。
○ 英語の文章を読むことで、覚えた単語や文法が実際にどのように使われているのかを学べるよう、英文を読む機会をつくり、学習を後押ししてください。